

私にも
言わせて!
第46回

この仕事に科学と
人間学の醍醐味を感じて



島根県総務部
隠岐支庁隠岐保健所
総務保健部長
梶浦 靖二

平成2年岡山大学歯学部卒業、同大学歯学部予防歯科学講座入局。6年岡山市保健所、9年島根県健康福祉部健康対策課、16年島根県雲南保健所、19年島根県雲南保健所、23年島根県健康福祉部健康推進課、26年より現職。

保健所の総務保健部長として、対人保健分野全般に加え、保健所の組織運営・管理に携わっています。メンタルヘルスにも気を配りながら、職員が能力を最大限発揮できるような職場環境づくりに努めています。人々や地域とつながりながら、離島住民の健康の保持増進という目的に向かって試行錯誤を繰り返しています。

私と公衆衛生

私は昭和59年に岡山大学歯学部に入学しました。学生時代は刺激を求め、本学体育会陸上競技部に入部し、勉強はそっちのけで朝練、夜練(さすがに実習はさぼらなかつた)と走りまわっていました。ただ、歯学部顧問が予防歯科学講座の教授でしたので、お宅で食事をこ馳走にならしたり、医局の飲み会に参加させていただきました。そういった場面で、教授をはじめいろいろな先生方から薫陶を受け、公衆衛生を身近に感じていました。

卒業後は、迷うことなく岡山大学歯学部予防歯科学科に入局し、公衆衛

生的な考え方を叩き込まれました。医学部衛生学講座の輪読会にも参加させていただき、統計学の知識や行政についての見聞を広げることができ、当時は行政に進むことのできることは夢にも思っていませんでした。

平成6年、そんな私に教授から、「岡山市が保健所設置をきっかけに歯科医師を探している」と声をかけていただきました。岡山市には3年間お世話になりましたが、見習い程度のことしかできなかったと思います。

その後、島根県から声がかかり、現在まで17年間、7つの組織で仕事をさせていただき、現在の隠岐保

健所勤務に至っています。最初の1年目こそ、歯科専門員として歯科保健に従事しましたが、健康増進、精神保健福祉、難病、地域医療、結核等一とおりの対人保健分野は担当させていただきました。

学生時代からのさまざまな人々とのつながりが、いまの私をつくってくれたと思います。

国立保健医療科学院での出会い

県の配慮により、平成27年4月から約3か月間、国立保健医療科学院における専門課程研修「保健福祉専門分野分割前期」を受講させていただきました。

運悪く? くじ引きで飲み会の幹事役を仰せつかり、先生方に声かけし、居酒屋で研修生の意見交換会をたびたび行いました。また、寄宿舎では、持ち寄った地酒をたしなみながら、研修生同志で反省会をしました。

研修は各分野で国内第一人者の先生方から講義を受けることができ、得るものがとても多かったです。プレゼンやレポート等も楽しみながら取り組むことができました。特に、プレゼンは職種を超えて、腹を割った議論ができたと思います。最終盤では、空き時間に研修生自身が講師になって自発的な勉強会もやりました。とても充実した生活を送ることができました。

研修期間中にお世話になった先生方、同じ釜の飯を食べた医師・保健師の方々との出会いを大切にしていきたいと思っています。

いまは研修成果を生かすべく、所長と相談し、「職員に求めるコンピテンシー」(別表)をまとめ、保健所職員に対して「人材育成研修」を定期的に行っています。また、保健所や管内町村の新任保健師に対して、「保健活動とPDCA」についての研修を行いました。

別表 職員に求めるコンピテンシー(知識や技能や価値観)	理由
1健康福祉部関連の国の行政や県行政全般で何が起きているのかを察知し、隠岐圏域における課題や新しいニーズを見出すことができる	PDCAサイクルに基づいて会議や事業を実施するだけでなく、事務処理においてもPDCAサイクルを意識化し、目的をもって、実効性ある処理を行うため
2わかりやすい公文書を作成することができる	親切で親しみやすく、美しい文書により、県民や関係機関・団体に保健所の取り組みに興味をもってもらうため
3協議に際して、わかりやすい資料を作成し、論点を明瞭に説明できる	所内協議の効率化を図るため、また、対外的な説明能力を高めるため
4隠岐の風土や文化を知る	隠岐の風土や文化を知り、地域の人々との話題づくりをおとし、関係機関・団体との人脈づくりやソーシャルキャピタルの醸成につなげるため

国立保健医療科学院の研修は公衆衛生をめざす医師等にはとても刺激になると思います。多くの方々に参加してもらい、活躍につながってもらいたいので、都道府県的主管課には配慮をお願いしたいです。

私のいまの仕事

いまのポストは「総務保健部長」です。一般的には、事務方次長的な役割と対人保健部門の統括をしています。県庁で予算要求や予算執行を行ってきたので、総務の仕

事もさほど苦ではありません。人事、人権研修、快適な職場形成、労働組合対応等管理職としての業務は、これまでの同僚の所作を振り返りながら対応しています。

また、職員ができるだけ科学的なものを見方ができるように、率先していろいろなデータを提示し、議論するようにしています。大きな方向性を示す必要があるときは、みずから会議資料を作成することもあります。対外的には地域医療構想等で病院や町村、医師会等関係団体との調整や交渉も行っています。歯科医師ではできない画像読影や採血等とそれに伴う業務は所長や保健師に任せています。結核発生時には所長の指示の下担当ともども対応しています。

管理職として心がけてほしいこと

職員が自分の能力を最大限に発揮できるような環境をつくることに心がけています。1日当たり5〜8件は処理しないとイケないことを各職員は抱えています。保健師でしたら、さらに住民からの電話相談や、関係機関から連絡が入ってきます。そういった状況で、

スピードに相談記録をまとめ、優先順位をつけながら業務を処理するためには、技術や知識だけでなく、意志力が必要です。5分間の運動の継続が意志力の獲得につながる(「自分を変える教室」ケリー・マクゴニカル著より)とのこと、毎日、先頭に立って職場体操を行っています。副次的効果もあるようで、職員間のコミュニケーションの活性化、心身がリフレッシュし、集中力が向上したという声を聞きます。

また、職員は職種や職位に応じた悩みを抱えながら仕事をしています。事務が滞っていないか、登庁時のあいさつの声は元気かなど様子を常に観察したり、メンタルヘルスセルフチェックを行い、職員と面談も行っていきます。職員が相談しやすいように、みずからは泰然とするよう心がけ、こちらからの声がけに努めています。職員の声に素直に耳を傾け、課長・係長にその声を伝え、マネージメントをお願いしています。健康を含め危機管理では重要な判断を求められます。「空振りしてなんぼ!」という気持ちで対応しています。

公衆衛生行政はおもしろい

公衆衛生行政は合理性、普遍性、客観性を追求し、科学的な問題解決手法を駆使することが肝要です。その一方で、人間の活動に介入するわけですから、「科学的」といっても、うまくいかないことのほうが多いかも知れません。

人々や地域とつながりながら、健康の保持増進という目的に向かって試行錯誤を繰り返す過程は、悲喜こもごもです。公衆衛生行政は科学的である一方、人間学でもあると思います。自分がどのような人生を送ってきたかを問われるように思いますし、それがおもしろさだと思います。特にここ隠岐の島は「絵の島 花の島 磯にや波の花咲く 里にや人情の花が咲く」と民謡に歌われています。「つながり」を大切に、歓喜の活動から感動の活動、感謝の活動となるよう、職員と一緒に汗を流したいと思います。

医師の皆さんにもぜひ、公衆衛生の道をめざしてほしいと思いますし、大学で魅力ある公衆衛生教育がされるよう願ってやみません。